

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

WEST

Document Number 1

Entry 1 of 4

File: JPAB

Sep 14, 1998

PUB-NO: JP410245032A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10245032 A
TITLE: CAN LID

PUBN-DATE: September 14, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
KOSHIMURA, KATSUMASA

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY
KOSHIMURA KATSUMASA

APPL-NO: JP09070478

APPL-DATE: March 6, 1997

INT-CL (IPC): B65D 17/32; B65D 17/34; B65D 17/347; B65D 17/353

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To vigorously discharge a content from a tap of a can lid of a canned beverage, and at the same time, facilitate the usage of a straw.

SOLUTION: This can lid is constituted in such a manner that a score part 2 for tap is provided on a can lid main body 1 from the center of the can lid main body 1 to the outer peripheral edge, and the leading part of a ring tab 4 for tap opening which opens the score part 2 for tap, is attached to the center of the can lid main body 1. In this case, on the opposite side from the score part for tap across the center of the can lid main body 1, a score part 3 for air inlet of about a size in which a straw can enter, is provided on the can lid main body 1. A ring tab 6 for air inlet opening, which opens the score part 3 for air inlet, is superposed on the ring tab 4 for tap opening. The leading end of the ring tab 6 for air inlet opening is located on the top of the score part 3 for air inlet, and the ring tab 6 for air inlet opening is pivotally attached 9 so as to be vertically rotatable at the rear part of the ring tab 4 for tap opening.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-245032

(13) 公開日 平成10年(1998)9月14日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 17/32
17/34
17/347
17/353

識別記号

F 1

B 6 5 D 17/32
17/34

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全4頁)

(21) 出願番号

特願平9-70478

(22) 出願日

平成9年(1997)3月6日

(71) 出願人 597040038

越村 勝正

石川県金沢市鈴見台1丁目7番16号

(72) 発明者 越村 勝正

石川県金沢市鈴見台1丁目7番16号

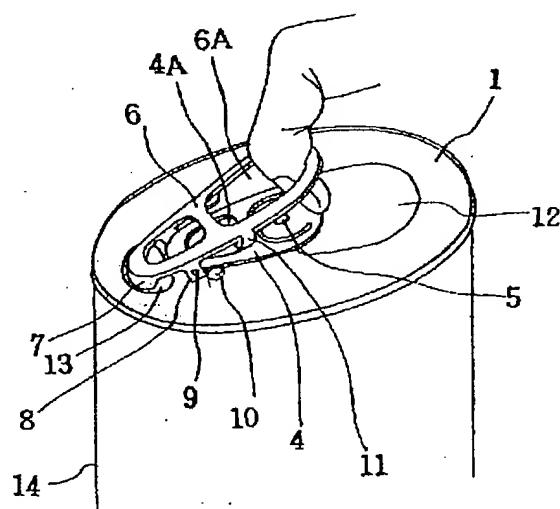
(74) 代理人 弁理士 宮田 正道

(54) 【発明の名称】 缶蓋

(57) 【要約】

【課題】 缶飲料の缶蓋の飲み口より内容物が勢いよく出ると共に、ストローの使用を便利にすることを可能とする。

【解決手段】 缶蓋本体1に缶蓋本体1の中心から外周部に向け飲み口用スコア部2を設け、飲み口用スコア部2を開口する飲み口開口用リングタブ4の先方部が缶蓋本体1の中心に取り付けられている缶蓋に於いて、缶蓋本体1に缶蓋本体1の中心を挟んで飲み口用スコア部の反対側に少なくともストローが入る程度の大きさの空気口用スコア部3を設ける。空気口用スコア部3を開口する空気口開口用リングタブ6を飲み口開口用リングタブ4上に重合する。空気口開口用リングタブ6の先端は空気口用スコア部3上に位置し、空気口開口用リングタブ6を飲み口開口用リングタブ4の後部に上下方向に回動可能に枢着9する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 缶蓋本体に缶蓋本体の中心から外周縁部に向け飲み口用スコア部が設けられ、この飲み口用スコア部を開口する飲み口開口用リングタブの先方部が缶蓋本体の中心に取り付けられ、飲み口開口用リングタブを引き起こすことにより飲み口用リングタブの先端縁部で飲み口用スコア部を開口する缶蓋に於いて、缶蓋本体に缶蓋本体の中心を挟んで前記飲み口用スコア部の反対側に少なくともストローが入る程度の大きさの空気口用スコア部が設けられ、この空気口用スコア部を開口する空気口開口用リングタブが飲み口開口用リングタブ上に重合され、空気口開口用リングタブの先端は前記空気口用スコア部上に位置すると共に、空気口開口用リングタブの前方部は飲み口開口用リングタブの後部に上下方向に回動可能に枢着されていることを特徴とする缶蓋。

【請求項2】 空気口開口用リングタブの枢着部に下向きのブラケットが設けられ、該ブラケットの下方部が空気口開口用リングタブの回動時に当接する凸部が缶蓋の上面に設けられていることを特徴とする請求項1記載の缶蓋。

【請求項3】 空気口開口用リングタブに飲み口開口用リングタブの縁部に係合する下向きのフックが設けられていることを特徴とする請求項1又は2記載の缶蓋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は缶飲料の缶蓋に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の缶蓋は、缶蓋本体の中心から外周縁部に向け飲み口用スコア部が設けられ、この飲み口用スコア部を開口する飲み口開口用リングタブの先方部が缶蓋本体の中心にリベットで止着されている。そして、飲み口開口用リングタブを引き起こすことにより、飲み口用スコア部を開口している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来、缶飲料の缶蓋の飲み口用スコア部を開口する場合、先ず飲み口開口用リングタブを指先で引っ掛け、次に僅かに起きた飲み口開口用リングタブを摘んで引き起こし、最後に起こした飲み口開口用リングタブを再び元に戻す動作を行っている。

【0004】そして、飲み口開口用リングタブを指先で引っ掛ける動作は、飲み口開口用リングタブの厚さが薄いので指先が引っ掛かり難く、又飲み口開口用リングタブを摘んで引き起こす動作もかなり指先の力を必要とするもので、子供や老人では必ずしも容易とは言えない。

【0005】又、開缶して飲用する場合、一気に飲みたくても飲み口より多量の内容物が連続してスムーズに出にくい欠点がある。又、子供や老人では飲み口から上手に飲めず、こぼす事態も度々生じ、ストローを使用して

飲むこともあるが、ストローを使用すると、飲み口からストローを挿し込むため、途中でストローを止めて直接飲み口から飲む場合は、ストローを一旦取り出し、缶を持つ手と反対側の手でストローを持っていなければならぬので非常に不便であった。

【0006】上記点より本発明は、缶飲料の缶蓋の飲み口より内容物が勢いよく出ると共に、ストローの使用を便利にすることを可能とした缶蓋を提供しようとするものである。

10 【0007】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため本発明缶蓋は、缶蓋本体に缶蓋本体の中心から外周縁部に向け飲み口用スコア部が設けられ、この飲み口用スコア部を開口する飲み口開口用リングタブの先方部が缶蓋本体の中心に取り付けられ、飲み口開口用リングタブを引き起こすことにより飲み口用リングタブの先端縁部で飲み口用スコア部を開口する缶蓋に於いて、缶蓋本体に缶蓋本体の中心を挟んで前記飲み口用スコア部の反対側に少なくともストローが入る程度の大きさの空気口用スコア部が設けられ、この空気口用スコア部を開口する空気口開口用リングタブが飲み口開口用リングタブ上に重合され、空気口開口用リングタブの先端は前記空気口用スコア部上に位置すると共に、空気口開口用リングタブの前方部は飲み口開口用リングタブの後部に上下方向に回動可能に枢着されていることを特徴とする缶蓋。

20 【0008】又、本発明缶蓋は、空気口開口用リングタブの枢着部に下向きのブラケットが設けられ、該ブラケットの下方部が空気口開口用リングタブの回動時に当接する凸部が缶蓋の上面に設けられていることを特徴とするものである。

【0009】又、空気口開口用リングタブに飲み口開口用リングタブの縁部に係合する下向きのフックを設けることもできる。

【0010】上記構成を有する本発明は、開缶に当たっては空気口開口用リングタブを指先で引っ掛け引き起こせば、空気口開口用リングタブは飲み口開口用リングタブとの枢着部を支点として空気口開口用リングタブの先端が下方へ回動し、その先端縁部で缶蓋の空気口用スコア部を押圧して空気口を開口する。空気口開口用リングタブの引き起こしに際しては、リングタブが二段となっているため指が引っ掛かり易い。ストローで飲用する場合は、空気口がストローが入る程度の大きさとなっているため、この状態で空気口にストローを挿し込めばよい。

【0011】次に、今度は空気口開口用リングタブを引き起こした方向とは逆の方向に、空気口開口用リングタブを引き起こした状態より更に引き上げれば、飲み口開口用リングタブの枢着部が引き上げられるから、飲み口開口用リングタブは引き起こされ、その先端縁部で飲み

3

口用スコア部を押圧して飲み口を開口する。飲み口の開口後、空気口開口用リングタブを下方へ回動し、引き起こされている飲み口開口用リングタブ上に重ねる。この状態で飲み口より飲用すると、空気口より空気が導入され内容物の出がスムーズになる。

【0012】請求項2は、空気口開口用リングタブの枢着部に設けたブラケットの下方部が空気口開口用リングタブの枢着部を支点として回動時に缶蓋の凸部に当接し支えるため、力を入れ易く、空気口用スコア部の開口に際して支点効果があがるものである。

【0013】又、請求項3は空気口開口用リングタブに設けたフックが閉缶時は、飲み口開口用リングタブの縁部に係合していることにより、不用意に空気口開口用リングタブが浮き上がり引っ掛けられることによる開缶を防止し、開缶時は空気口開口用リングタブを下方へ回動し、飲み口開口用リングタブの縁部にフックを係合することにより、飲用時に引き上げられた空気口開口用リングタブが鼻に当たらないよう飲み易くすることができる。

【0014】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施の形態を図面に基づき説明する。図1乃至図4は本発明缶蓋の開缶工程を示す断面図、図5は本発明缶蓋の開缶の作用を示す斜視図である。

【0015】而して、図中1は缶蓋本体、2は缶蓋本体1の中心から外周縁部に向け設けた飲み口用スコア部であり、舌形状に弱め線2Aが刻設されている。3は缶蓋本体1の中心を挟んで飲み口用スコア部2の反対側で缶蓋本体1に設けた空気口用スコア部であり、略円形、舌形状等に弱め線3Aが刻設される。空気口用スコア部3は少なくともストローが入る程度の大きさである。

【0016】4は缶蓋本体1の中心に設けたリベット5に先方部が止着された飲み口用リングタブであり、指掛け部4Aが形成されている。6は空気口用スコア部3を開口する空気口開口用リングタブであり、空気口開口用リングタブ6は前記飲み口開口用リングタブ4上に重合され、空気口開口用リングタブ6の先端は空気口用スコア部3上に位置している。又、空気口開口用リングタブ6の先端下面に凸部7が設けられている。凸部7は必ずしも必要としない。尚、図中6Aは空気口開口用リングタブ6の指掛け部である。

【0017】そして、空気口用スコア部3の前方部の両側部に下向きのブラケット8が設けられ、このブラケット8で空気口開口用リングタブ6は飲み口開口用リングタブ4の後端部の両側部に上下方向に回動可能に枢着9されている。

【0018】10は缶蓋本体1に設けた凸部であり、この凸部10は空気口開口用リングタブ6が回動し、その先端縁部で空気口用スコア部3を開口する時、前記ブラケット8の下方部が支える位置に左右2個設けられている。11は空気口開口用リングタブ6の両側部に下方に

4

向け設けた小片状のフックであり、フック11は飲み口開口用リングタブ4の指掛け部4Aの外側又は内側に隣接する。尚、図中12は飲み口、13は空気口、14は缶本体である。

【0019】

【発明の効果】本発明によれば、缶蓋に空気口を開けることで、ストローにより飲用することができるから幼児、老人、女性には好適である。又、飲み口より飲用する場合は、空気口より空気が入り、飲み口より内容物が

10スムーズに出易くなり、グラス感覚でダイナミックに飲用可能となる。又、飲み口より飲用し、途中でストローに変えることもでき、又ストローから逆に飲み口に変える場合であっても、ストローを空気口に挿し込んでおけるため、従来の様に缶を持つ手と反対の手でストローを持つ手間が省けるものである。又、空気口開口用リングタブ6の引き起こしに際しても、従来の飲み口開口用リングタブの引き起こしに比べて指が引っ掛けられ易く、小さな力で開くことができ、子供、老人、女性でも容易に開缶できるものである。又、空気口用スコア部の開口に際しては、空気口開口用リングタブにブラケットを設けたことにより支点効果があがり、力が入り易く、更に空気口開口用リングタブにフックを設けたことにより、閉缶時は不用意な開缶を防止し、開缶時は飲用の際、引き起こされた空気口開口用リングタブが鼻に当たらなく、飲用し易い等効果の多い有用な発明である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明缶蓋の開缶工程の一実施の形態を示す断面図である。

【図2】本発明缶蓋の開缶工程の一実施の形態を示す断面図である。

【図3】本発明缶蓋の開缶工程の一実施の形態を示す断面図である。

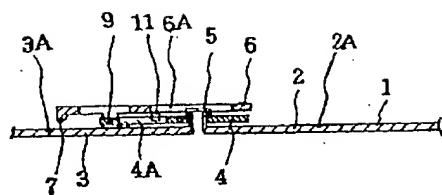
【図4】本発明缶蓋の開缶工程の一実施の形態を示す断面図である。

【図5】本発明缶蓋の開缶の作用を示す斜視図である。

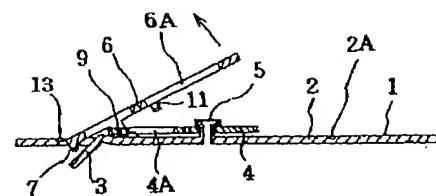
【符号の説明】

- 1 缶蓋本体
- 2 飲み口用スコア部
- 3 空気口用スコア部
- 4 飲み口開口用リングタブ
- 4A 指掛け部
- 5 リベット
- 6 空気口開口用リングタブ
- 6A 指掛け部
- 7 凸部
- 8 ブラケット
- 9 枢着
- 10 凸部
- 11 フック

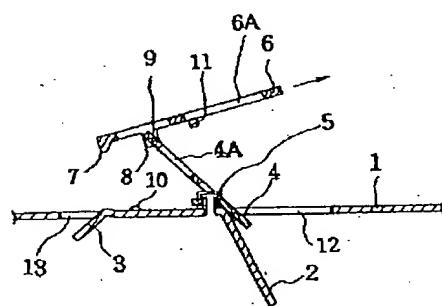
【図1】



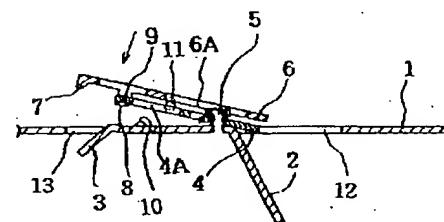
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

